

課題番号	9-4	分野名	木材加工	予算区分	県単
研究課題名	とちぎ材強度特性試験：その4（樹種別耐久性実証試験）				
担当者名	大野 英克・鈴木 寿幸・ 亀山 雄揮・安藤 康裕	研究期間	平成21～25年度		

1 緒言

木材における樹種別に起因する「材の経年劣化状況および相対的な違いの明確化」を要望する業界の声に対応し、同一条件化での樹種別耐久性能を確認し建築材としての有効性能を把握するため、屋外暴露試験を実施し、被害度を調査するとともに、暴露後の試験体を用い強度性能試験を実施する。

2 材料

- (1) 樹種 ①G スギ白太材,②G スギ赤身材,③G スギ黒芯材,④G ヒノキ材,⑤KD スギ白太材,⑥KD スギ赤身材,⑦KD ヒノキ材⑧G サワラ材,⑨G アカマツ材,⑩G カラマツ材,⑪G モミ材,⑫G クリ材,⑬G サクラ材,⑭G ナラ材,⑮ベイツガ材,⑯ベイツガ材,⑰ベイスギ材,⑱ホワイトウッド集成材,⑲レッドウッド集成材,⑳スギ木酢液処理

(2) 規格及び本数

○屋外暴露試験及び実大圧縮試験用

各樹種共通で、100 mm×100 mm×250 mmとする

各樹種とも 90 体（全体で 1800 体）

～当初調査用 10 体＋経年変化調査用 10 体×8 年～

3 方法

①屋外暴露試験

- ・屋外暴露は林業センター敷地内とし、軸方向が垂直となるように設置する

②被害度

- ・経年変化を調査
- ・目視により表面の状況（カビ・変色等）や断面欠損の状況を確認

③実大材圧縮強度試験

- ・実大材強度試験機を用いて短柱圧縮試験を行い、最大荷重・強度を測定

